

## 第99回卒業証書授与式 校長式辞

令和7年3月14日

比企の大地にも春の息吹が漂い、希望の季節が巡ってまいりました。

この良き日に、学校評議員、東松山市立松山中学校長 梶田 英司様、PTA会長 瀬谷 隆志 様、同窓会長 安齊敏雄 様、をはじめ、多くの御来賓の御臨席と保護者の皆様とともに、埼玉県立松山高等学校第99回卒業証書授与式が盛大に挙行できますことを、教職員一同、心から感謝申し上げます。

さて、ただいま、卒業生309名に卒業証書を授与いたしました。その時の卒業生の目の輝きに、3年間の教育の成果を見る思いがいたしました。

卒業生の皆さんは、3年前の春、入学式、対面式、校歌応援歌練習で先輩たちの厳しさと思い遣りの中、本校の学校生活をスタートさせました。以来、照りつける夏の太陽の下で鍛え、天が高くなる秋に学び、木枯らしが吹く冬の厳しさに耐え、心と体を鍛え、百年間継承してきた本校の建学の精神「文武不岐」を確実に実践し、勉学と部活動、学校行事に取り組んできました。苦しかったこと、辛かったこともあったかもしれませんが、皆さんはそれを乗り越え、今ここにいます。今日は皆さんのそれぞれの頑張りに対して、心よりお祝いし、敬意を表したいと思います。本当によく頑張りました。

ここで、新たに旅立つ卒業生の皆さんに一言饒の言葉を贈ります。

一つ目は、「学び続ける心」を持ってほしいということです。成年年齢が18歳に引き下げられ、卒業生のほとんどが成年になりました。したがって、卒業生の皆さんは今後直面する様々な課題に対して、自ら考え、正しく判断し、主体的に行動することがより重要になります。

中国で約2500年前に生きた世界的に有名な孔子は、論語の中で、学び続けることの大切さをこのように述べています。

「学びて時に之を習う、亦（ま）た説（よろこ）ばしからずや」

これは、『論語』の中でも特に有名な一節であり、「学んだことを繰り返し実践することは、何と楽しいことではないか」という意味を持ちます。孔子は、生涯を通じて学びを重んじ、その知恵を弟子たちに伝えました。

情報が溢れ、変化のスピードが速い現代では、「学び続けること」が、仕事や人間関係、人生そのものを豊かにする鍵となるからであります。

二つ目は、学び続ける心を支えるものは、丈夫な体と強い精神力にあるということです。高校に在学中は体育の授業や部活動がありますが、卒業を機会に身体活動は減少する傾向にあります。皆さんには、卒業後においても身体活動やスポーツを生活の中に意識して取り入れることを強く勧め

ます。令和2年にWHOが公表した身体活動のガイドラインでは、身体活動を実施することによって、様々な病気が予防され、うつや不安の症状が軽減されるとともに、思考力や幸福感を高められるとされています。人間の豊かな生活の基礎は健康にあります。どうか、卒業生の皆さんには、運動やスポーツの生活化を通して健康をつちかい、夢や希望の実現に力強く向かっていただきたいと思います。

三つめは、感謝の心についてです。

先日発行された松高新聞の中で「ありがとう」をつたえる、という新聞部部長 本郷君の記事を一部紹介します。

2年生になり、当時の部長に「次の部長をやってほしい」と伝えられた。この年に新入部員が50人以上、次の年には70人弱が入部した。何度も心が折れそうになったが、仲間や元部長がよく相談に乗ってくれた。最後まで続けてこれたのは部の仲間だけでなく、取材相手の存在もあっただろう。そして、取材先で毎回のように言われたのは「ありがとう」だった。新聞部からお願いして取材をさせていただいているにもかかわらず、感謝をしてくれるのはうれしかった。多くの部員、取材相手、そして顧問の先生のおかげで自分は大きな成長をすることができたと思う。これからは自分が率先して「ありがとう」を言える存在になりたい。と述べています。

アップル共同創業者のスティーブ・ジョブズ氏は、「感謝の心が人を育て、感謝の心が自分を磨く」という言葉を残していますが、この言葉のとおり松高新聞の記事でしたので、本郷君の了解を得て、紹介をさせていただきました。

卒業生の皆さんが今あるのは、両親、家族、先生や仲間をはじめ多くの人々の支えがあってのことです。これからも、周りへの恩を忘れず、感謝の心を持ち続けてください。

次に、在校生の皆さんにお願いです。卒業生が残してくれた数々の素晴らしい実績や伝統と校風を受け継ぐとともに、建学の精神、文武不岐をより高いレベルでの実践を目指し、松山高校のブランド力を高めていただきたいと思います。「立てる者は歩け、歩ける者は走れ、走れるものは飛べ」です。在校生の皆さんの更なる努力と挑戦を期待しています。

最後に、保護者の皆様にお礼とお願いを申し上げます。この三年間、時には厳しく時には優しくお子様を励まし支えていただくとともに本校の教育活動に絶大なる御理解と御協力を賜り心から感謝を申し上げます。

親という漢字を分析しますと、「立つ木を見る」となりますが、卒業したとはいえ、社会的にはまだまだ経験が浅く、十分とは言えません。今後は、人生の先輩として、お子様を見守ってください。そして、引き続き本校の充実・発展にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本日、御列席の御来賓の皆様の御健勝と卒業生の皆さんの、今後の御活躍と御多幸を祈念して、私からはなむけの言葉といたします。

令和7年3月14日

埼玉県立松山高等学校長 小久保 守